

10 アルカリ性洗剤で化学やけどー！

キッチンなどの汚れは、汚れの^{もと}素である油やホコリ、タンパク質等が混ざり合って固まったり、熱や光、空気中の酸素等によって化学変化を起こしたりしているため、大変落ちにくいものです。このような頑固な^{がんこ}汚れを落とすには、固まってしまった汚れの奥まで染み込んで柔らかくし、溶けやすくする、アルカリ性の洗剤が効果的ですが、それだけに影響力も大きく、「ハウスクリーニング業者が、作業中にこぼした洗剤が自分の足にかかったことに気付かなかったため、手当てが遅れてしまい、移植が必要なほどの化学やけどを負った」という相談が当センターに寄せられました。

使用された洗剤は、アルカリ度が極めて高い（pH13）業務用の洗剤でしたが、家庭内でも、^{かんきせん}換気扇用クリーナー、レンジ用クリーナー、また用途に応じて薄めて使う万能クリーナーなど、さまざまなアルカリ性洗剤が使われています。アルカリ液は、皮膚に接触すると皮膚の中のタンパク質を^{おか}侵し、^{しんとう}浸透しながら徐々に深部組織まで達して、やけどのような炎症を引き起こします。酸や高温物と違って皮膚に触れた瞬間に感じる刺激が弱いため、気付かずに処置が遅れると、思わぬ重症につながることもあります。今回の相談事例のように、長時間放置したり、皮膚の異常に気付いてからもそのうち治るだろうと軽視したりすると、その間にも深部への浸透が進み、取り返しがつかない結果となってしまうのです。



アルカリ性洗剤が皮膚についたときは、すぐに大量の水で洗い流し、少しでも異常が残る場合は迷わず皮膚科の診察を受けてください。また液が付着した衣類や履物^{はきもの}を着用し続けると間接的に肌に接触する恐れがありますので、すぐに着替えて、脱いだ衣類等は洗濯してください。眼に入ったときは、こすらずに直ちに十分な流水で15分以上洗眼し、早めに眼科を受診してください。手当てが遅れると失明する恐れもあります。また子供などが誤って飲んでしまったときは、なめた程度ならうがいをしてコップ1杯くらいの水か牛乳を飲ませて様子を見ますが、大量に、または原液を飲んだ場合は、吐かせるとかえって危険ですので、コップ1～2杯の水か牛乳を飲ませて応急処置をした後、至急、医師の診察を受けてください。なお受診する際には、より適切な処置^{しんそく}を迅速に受けられるよう、製品を持参するとよいでしょう。

今年も残すところ2ヵ月足らず、そろそろ年末の大掃除が気にかかる頃になってきました。トイレ、キッチン、ガラス窓など、場所や用途に応じてさまざまな洗剤がありますが、使用にあたっては、それぞれの製品表示に従って、保護用のメガネ^{すいじ}・炊事用手袋・マスク等を準備して、誤って眼に入ったり、皮膚に付いたり、ミストを吸い込んだりしないように注意しましょう。また、洗剤の種類によっては混用すると有毒ガスを発生する恐れがありますので、詰め替えには専用の容器を使い、複数の洗剤を同時に使用するときは特に使用上の注意をよく読みましょう。保管する際にも、キャップをしっかり締め、子どもの手の届かない平らな場所に置きましょう。

(平成13年11月発行)

